

## ～活動報告～

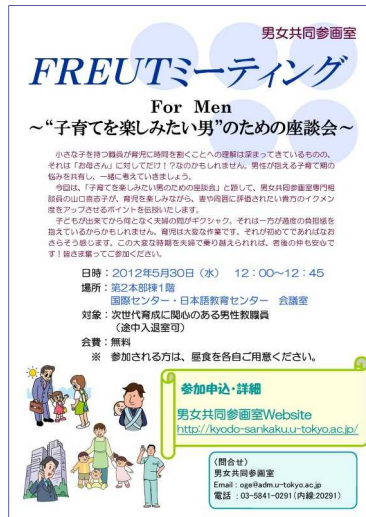
### 「FREUTミーティング For Men ～“子育てを楽しみたい男”のための座談会～」

男女共同参画室では、2012年5月30日(水)、第5回目となるFREUTミーティングを、「For Men～“子育てを楽しみたい男”のための座談会～」と題して、男性教職員を対象に本郷キャンパスにて開催しました。

短い時間でしたが、参加者が育児参加について意識の高い少数精鋭でしたので、楽しい座談会となりました。専門相談員よりパートナーの妊娠を知ることから子育てに役立つ情報をご紹介させていただいた後、各参加者の子育て経験などの自己紹介から役割分担したロールプレイングを即興で体験していただきました。

「子育て真っ最中育休ママ」の生活の一場面を通して、その大変さを楽しんで体験していただき、感想を共有しました。すでにお子さんもいらっやっやと働いて奥さまを支えてらっしゃる参加者でも、視点を変えてみると気付くことがあり、面白く体験しながらも実感としてその大変さを感じることができたと思います。ロールプレイだから笑えることだけでも、実際の子育ても子どもが大きくなり落ち着いた時に「あの頃は本当に大変だったね～」と夫婦で笑って思いだせることが何よりの幸せだと思います。男性教職員には是非ご参加お勧めします。

<http://kyodo-sankaku.u-tokyo.ac.jp/activities/freut-meeting/5.html>



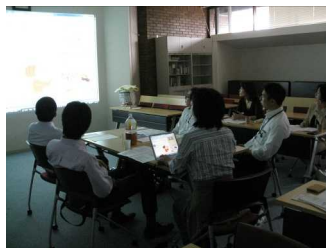
男女共同参画室  
FREUTミーティング  
For Men  
～“子育てを楽しみたい男”のための座談会～

小さな子を持つ職員が育児・時間割を割くことへの理解は深まってきているものの、それは「お母さん」に対してだけ！？なのかもしれません。男性が抱える子育て期の悩みを共有し、一緒に考えていきましょう。

日時：2012年5月30日(水) 12:00～12:45  
場所：第2本館棟1階 国際センター・日本語教育センター 会議室  
対象：次世代育成に関心のある男性教職員 (途中入退場可)  
会費：無料  
※ 参加される方は、服装を各自ご用意ください。

参加申込・詳細  
男女共同参画室Website  
<http://kyodo-sankaku.u-tokyo.ac.jp/>

(問合せ)  
男女共同参画室  
Email: ogg@edu.u-tokyo.ac.jp  
電話: 03-5841-0291(内線20291)



勤務態様部会

男女共同参画室事務局

### 東京大学次世代育成支援対策行動計画の実施期間変更

次世代育成支援対策とは、次代の社会を担う子どもを育成し、又は育成しようとする家庭に対する支援その他の次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、かつ、育成される環境の整備のため、国若しくは地方公共団体が講ずる施策又は事業主が行う雇用環境の整備その他の取組みをいいます。東京大学では、2005年度より第1期の計画を開始し、現在第3期計画に取り組んでいます。このたびその実施期間を「2009年5月1日から2012年7月31日までの3年間」に変更いたしました。

[http://www.u-tokyo.ac.jp/per01/public15\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/per01/public15_j.html)



### 新『Perspectives』製作中

進学促進部会では、女子中高生向け冊子『Perspectives』を発行・配布しています。女子東大生やOGへのインタビューや座談会を通じて、東京大学で女子学生がどのような生活をおくっているのか等を紹介しています。

本冊子は、男女共同参画室主催の女子中高生向けイベントや各地で開催される主要大学説明会の本学ブース等にて配布するほか、今回からウェブサイトでも公開する予定です。

完成は8月上旬の予定です。お楽しみに！

<http://kyodo-sankaku.u-tokyo.ac.jp/activities/shingakusokushin/>



進学促進部会

### 「FREUTミーティング For Men in 駒場」を開催します

本郷キャンパスでの開催につき、東大駒場むくのき保育園のある駒場Ⅱリサーチキャンパスでも「FREUTミーティング For Men in 駒場～“子育てを楽しみたい男”のための座談会～」を男性教職員を対象に開催いたします。小さな子を持つ職員が育児に時間を割くことへの理解は深まってきているものの、それは「お母さん」に対してだけ！？なのかもしれません。男性が抱える子育て期の悩みを共有し、一緒に考えていきましょう。



男女共同参画室  
FREUTミーティング  
For Men in 駒場  
～“子育てを楽しみたい男”のための座談会～

小さな子を持つ職員が育児・時間割を割くことへの理解は深まってきているものの、それは「お母さん」に対してだけ！？なのかもしれません。男性が抱える子育て期の悩みを共有し、一緒に考えていきましょう。

日時：2012年7月6日(金) 12:00～12:45  
場所：駒場Ⅱリサーチキャンパス 先端科学技術研究センター 14号館 RCASTカフェ  
対象：次世代育成に関心のある男性教職員 (途中入退場可)  
会費：無料  
※ 参加される方は、服装を各自ご用意ください。

参加申込・詳細  
男女共同参画室Website  
<http://kyodo-sankaku.u-tokyo.ac.jp/>

(問合せ)  
男女共同参画室  
Email: ogg@edu.u-tokyo.ac.jp  
電話: 03-5841-0291(内線20291)

日時： 2012年7月6日(金)  
12:00～12:45 (途中入退場可)  
場所： 駒場Ⅱリサーチキャンパス  
先端科学技術研究センター  
14号館 RCASTカフェ

<http://kyodo-sankaku.u-tokyo.ac.jp/activities/freut-meeting/6.html>



## ーロールモデル紹介ー

### 「なぜ？」の答えを見つける喜びを原点に 物理学の最新分野「量子情報」を研究

村尾 美緒 准教授 (大学院理学系研究科)

#### ～「なぜなぜ美緒ちゃん」と呼ばれて～

小さい頃は何でも知りたがる子でした。みんなに「なぜ？ どうして？」と聞きまくっていたので、近所の人たちにも「なぜなぜ美緒ちゃん」と呼ばれて恐れられていました(笑)。「空はどうして青いの？」というような質問だけでなく、母に「これをしなさい」と言われても「なぜ？」と聞いて、理由を納得しないとやらない子どもでしたから、強情でかわいげがなかったかもしれませんね。母は「やれと言ったらやりなさい」と怒っていましたが、父は「ちゃんと言わなくてはわからないよ」と私の味方をしてくれました。妹が一人いますが、妹は私と違って、なぜなぜっ子ではありませんでしたね。彼女が「なぜ」と聞く前に私が先に答えを教えてしまっていたからかもしれません。

#### ～三角形の内角の和が180度になることに感動～

小学校では理科と算数が好きでした。父が工学系の研究者で、6歳くらいのころに一緒にいろいろな実験をして遊んでくれました。それも理科が好きになった理由の一つだと思います。算数は、考えるのは好きでしたが計算を間違えずにきちんとやるのは苦手でした。今でも細かいことをきちんとやるのはあまり得意ではありません。アルゴリズムがわかっているのと、それを間違えずに実行できる能力は必ずしも同じではないということですね。

算数では、「どんな三角形でも内角の和は180度になる」ことを知って、とても感動したのを覚えています。こういう普遍的なことを見つけるのを本当に楽しいと思う子どもでした。ところが、父にこの話をしたら「必ず180度になるとは限らないのだよ。周りを探してごらん」と言うのです。それであちこちを探し回り、ふと地球儀を見ていて発見しました。平面ではなくて地球儀の曲面上の三角形の内角の和は180度ではないのです。この発見もすごくおもしろいと思いました。

#### ～費用対効果のよい物理が得意科目に～

中学は地元の国立大学の附属に進みました。理科の先生がおもしろい先生で、1年に何回か自分の好きなことをやっていい授業がありました。私は液体を混ぜると色が変わるのを見るのが好きだったのですが、透明な液体と透明な液体を混ぜると赤色になって、どうして透明な物から色が生まれるのか不思議でした。磁石も、電池などで外部からエネルギーを供給せずに金属を動かすという仕事ができることが不思議で、そうしたことを「なぜだろう？」と考えるのが好きでした。

高校は県立の進学校



に進みました。ここで初めて物理を「物理」の授業として習ったわけですが、論理立てて考えれば問題が解けてよい点が取れたので、物理が得意科目になりました。他の科目は暗記が必要だけれど、物理は考えれば公式もその場で導くことができ解けるので、かける時間や努力を考えると、私にとっては費用対効果のよい科目だったのです。



#### ～苦手な英語が二次試験にないお茶大物理に進学～

高校時代は英語の勉強が嫌いで、二次試験で英語が必要ないお茶の水女子大学の物理学科を受験し、進学しました。でも、大学に入ったとたん物理が大嫌いになりました。なぜなら、微分方程式の解き方を覚えないと先に進めなくなったからです。「考えれば解けるのがおもしろくて物理に進んだのに、結局暗記が必要なのか」と思ってしまった。

すっかりやる気のなくなっていた私を救ってくれたのが「量子力学」との出会いでした。これは必修科目だったのですが、見る視点を変えると物の見え方が変わることや、これまでの常識では一見不可思議なことが、思い込みを排除して前提を変えることですべてきちんと説明できることに感動して、「おもしろい。私がやるのはこれしかない」と心に決めました。それからはずんずんやる気が出て、2年生の後半からはほとんど全部の科目で優を取りました。

大学時代の後半には英語も苦手ではなくなりました。3年生になって友人とヨーロッパを旅行して「英語ができると世界が広がる」と感じたのがきっかけです。英語でニュースやテレビドラマを見るようにして、台詞の物まねをするようにしていたら、だんだん英語力がついてきたように思います。

#### ～研究者として生きることを決意し、戦略を練る～

大学院に進み、修士課程を終えたら就職するつもりでした。「量子力学」を使える仕事がしたいと思って就職先を探したのですが、これと思える会社がなく、そのまま博士課程に進みました。その時に、「ただ研究が好きというだけでは職業にならない、職業として研究者の道を進むには、戦略を練らなくては」と真剣に考えました。自分の得意分野を見極めて、そこを伸ばさないと将来はないし、人があまりやってない分野で論文を書かないとだめだと思いました。当時、「量子暗号」というものが日本で紹介され始めた頃で、私はスパイ小説も好きだったので、量子力学と暗号の思いがけない組み合わせにわくわくし、量子力学をまったく新しいことに利用してみたいと考えました。

新天地で研究にチャレンジしてみたい、という思いも高まっていたので、ドクターからは外国で研究したいと考えてドイツの大学院に行くつもりでドイツ語学校にも通ったのですが、奨学金の選考に落ちてあきらめました。その代わりに、ドクターコースの同級生と二人でヨーロッパの「物理学会」と名の付くところに手紙を出しまくって、研究者向けの「サマースクー



ル」の情報を集めました。ドクター1年の夏には、返事をくれたイタリアとドイツのサマースクールに二人で参加しました。はじめて体験した英語の授業でしたが、すべてが新しく楽しかったですし、海外の同年代の研究者たちと知り合うことのできた貴重な体験でした。一人では行くことを躊躇したかもしれないので、一緒に行く仲間がいたのは本当に幸いでした。後に夫となるイギリス人の研究者とも、ドイツのサマースクールで出会いました。

### ～結婚、博士研究員としてロンドンへ～

ドクターを取ったあとは、アメリカのハーバード大学の博士研究員として短期間勤めました。ハーバード大学では、周りの皆が自分より優秀に見えて落ち込みました。私はそれまで女子大でのんびり過ごしてきたのですが、他の研究員は世界中から選抜されたアグレッシブな方々が多く、見るからに賢そうで、私はすっかり自信を無くしてしまったのです。そんな気持ちを同僚に愚痴ると「みんな賢そうなフリをしているだけ」と慰められました。それを聞いて気が楽になり、「自分はダメだと思って何もしなかったら、どんどんダメになる。考えてもしょうがないことを悩むのはやめて前進しよう」と思うことができ、論文を1本仕上げました。

その後結婚し、英国ロンドンのインペリアルカレッジの博士研究員になりました。夏のロンドン快適でしたが、冬のロンドンは天気が悪くて気分が落ち込みました。同じ物理学の研究者だった夫はビジネスマンになっていて出張が多く不在がちでしたし、研究も教授からのレスポンスがなくて、「何もかもがうまくいかない」という焦燥感に悩まされました。この時も同僚に自分の辛さを愚痴ったのですが、その同僚から「量子情報の研究チームがあるから、そこに入ったら」と勧められたのです。量子情報とは、量子力学を情報処理や情報通信に利用しようとする新しい学問で、ドクター進学の際に心を踊らせた量子暗号もこの分野に含まれます。これが、私が今研究している「量子情報」との出会いでした。このチームに入って研究をはじめたことで、私の今があります。ですから、辛い時は一人で考え込まずに、周りに愚痴って思いを吐き出すといいと思いますね。客観的な意見が聞けますし、自分の気持ちの整理もできますから。

### ～日本に戻り、東大の理学系研究科へ～

インペリアルカレッジでの研究は楽しく、3年目は学部の演習を受け持つなど興味深い経験をしましたが、夫が今度は日本で働いてみたいと言うので、日本に戻ってきました。夫は勤めていた会社の日本支社に転勤したのですが、私は一

から職探しを始め、理研で研究員をした後東大の理学系研究科に勤めることになりました。着任して初めて、物理学科の助教授以上では私が初めての女性教員だったことを知り、驚きました。赴任する10日前に男の子を出産したので、そのまま産休に入り産休が終わってからここに来ました。女性の先任者がいなかったのでロールモデルがなく、何事も手探りでした。失敗や遠回りも色々しましたが、逆に先例がないことで、自分がやりたいようにやってみる自由度がありましたので、チャレンジ好きの私には、それはそれでよかったと思います。

保育園が見つからなかったので、子どもの世話はベビーシッター頼みでした。お金はかかりましたが、ほかに選択肢がありませんでした。その後、実家の母にも手伝ってもらうようになりました。息子は今10歳で、小学校に通っています。子どもを観察するのはおもしろいですよ。私と違ってなぜなぜっ子ではありませんが、不気味なくらい似ているところもあります。

### ～自分にしかできないものがあると強い～

理系が好きで、理系の大学に進みたいと考える人は、「どうしてだろう?」と疑問に思い、自分が納得できる道筋を考える習慣をつけるといいと思います。さらに、自分の特色を生かすことを考えるといいですね。「その人しかできない」という意味でユニークな人、他に代わる人のいない唯一の人になると強いと思います。さらに、そういうユニークな人たちが協力しあうことで、これまで世の中に存在しなかった新しい価値を生み出すことができます。

私は自分の学生にも「人と同じ山に登りたがるな」とアドバイスしています。既に多くの人が行っている研究分野で皆と同じ目標を目指すのではなく、人が登っていない新しい山を見つけて登るとい道があるのです。いい山かどうかかわらなくても登ってみて、だめだったら下りて新しい山を探せばいいのです。失敗を恐れずチャレンジし続けることが大切です。東大では、こういうチャレンジ精神にあふれる元気な学生は、むしろ女子の方に割合が多いかもしれません。私は、東大に理系の女子大生がもっともっと増えてほしいと願っています。

興味があったら、ぜひ学びに来てください。

### 村尾 美緒 (Mio MURAO)

東京大学大学院理学系研究科物理学専攻 准教授

1991年お茶の水女子大学理学部物理学科卒業。1996年同大学院人間文化研究科人間環境学専攻博士課程修了(博士(理学))。米国ハーバード大学博士研究員および英国インペリアルカレッジ博士研究員を経て1999年理化学研究所基礎科学特別研究員。2001年東京大学大学院理学系研究科助教授に着任、2007年職名変更により現職。2010年6月～2011年6月東京大学男女共同参画室室長。

※男女共同参画室ウェブサイト「インタビュー」コーナーでは、女子中高生、本学女子学生のみなさんにとってロールモデルとなるような女性研究者を中心にご紹介していく予定です。是非ご覧ください!

<http://kyodo-sankaku.u-tokyo.ac.jp/interview/>



## 女子新入生歓迎イベント2012

進学促進部会



昨年度から男女共同参画室進学促進部会では、女子学生を対象とした「新入生歓迎イベント」を開催しています。このイベントは、特に地方から出てきた女子学生が孤立しないで学生生活に入っていくためのきっかけ作りのひとつとして実施しているものです。今年は5月26日(土)に駒場コミュニケーションプラザ2階のDining銀杏にて開催しました。

今回の実施にあたっては、学生団体UTWOの全面的な協力により多彩な卒業生をお呼びし、女子学生が様々なロールモデルと出会うイベントとなりました。当日はUTWOのイベントが直前に実施されたこともあり、引き続き参加された方が多く、新入生

だけでなく2年生以上の在生も多く参加していました。現役学生・卒業生を合わせて約120名の参加があり、参加者からは様々な出会いがあつて大変よかったとの声が聞かれました。イベントの開会にあたっては男女共同参画室進学促進部会を代表して、熊田亜紀子准教授(工学系研究科)のから挨拶があり、その後参加者は個々のテーブルに分かれ、直接卒業生と積極的に話し合っていました。最後に松本武祝教授(農学生命科学研究科)の挨拶で盛会のうちに閉会しました。



今年の新生は女子比率が下がり、理科一類では13のクラスで女子が1名のみという状況でした。自治会が実施したアンケートでも女子が1名のみ

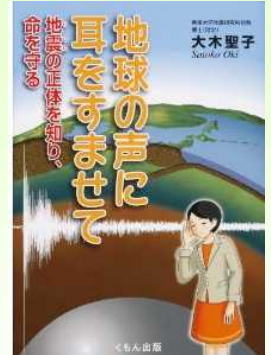


あることに対しては否定的な見解を示しており、今後も新入生が大学生活にスムーズに入れるような取組みが必要と思われます。

<http://kyodo-sankaku.u-tokyo.ac.jp/activities/shingakusokushin/>

## 一図書紹介一

本学地震研究所の大木聖子助教著『地球の声に耳をすませて: 地震の正体を知り、命を守る』(くもん出版)が、『第59回産経児童出版文化賞』の「JR賞」を受賞、さらに『第58回青少年読書感想文全国コンクール』中学生の部の課題図書に選ばれました。



2011年3月11日に、なにが起きたのか?なぜ津波は発生し、余震は続いているのか?地震に対する正しい知識を得ることで自分の命や大切な人たちの命を守ってほしい——そんな願いをこめて、地震学者が東北地方太平洋沖地震や地球についてわかりやすく説明しています。児童むけ科学読み物ですが、おとなの方にも是非ご一読いただければと思います。

- くもん出版 児童書  
(2011年12月22日発売)
- 1,470円(印税はあしなが育英会から震災遺児に寄付されます。)
- 対象: 小学上級から
- A5版縦 128ページ(カラー)



## メールマガジン登録受付中

東京大学男女共同参画室事務局では、毎月1~2回、メールマガジンを発信しています。学内イベント情報や、男女共同参画室ウェブサイトの更新情報等をメールにてお知らせします。各部局による女子中高生向けイベント等は定員が限られているものもありますので、受付期間を見逃さないようご活用いただければと思います。いつでもご自身で登録・解除をしていただくことが可能です。 <http://kyodo-sankaku.u-tokyo.ac.jp/about/sign-up/>

## 編集・発行

### 東京大学 男女共同参画室

〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1 第二本部棟1階  
TEL: 03-5841-0291 FAX: 03-5841-0290  
E-mail: [sankaku@adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:sankaku@adm.u-tokyo.ac.jp)  
URL: <http://kyodo-sankaku.u-tokyo.ac.jp/>

## 【編集後記】

先日初めて開催した男性教職員向けのFREUTミーティング、参加は普段から積極的に育児に参加している方々が中心でしたが、将来の結婚・育児に向けて、と独身の方にもご参加いただけたことが印象的でした。